

双松会会報

第39号「双松会」通巻43号「松高北高同窓会報」通巻43号

発行 松江市奥谷町164番地 島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 0852-21-4888
FAX: 0852-21-4977
印刷 有限会社高浜印刷 TEL: 0852-36-9100

青春グラフィティ

Vol.16

普通科27期・理数科6期
(昭和51年卒)

渡利 隆司

我ら還暦・それがどうした!

私は、昨年還暦を迎えた61歳。今回、原稿の依頼は「青春グラフィティ」

なんと遠い昔の話だろう。北高第27期生。

当時のU先生から「北高100年の歴史の中で一番の不作の年」と言われた年だ。

1年の夏休みでは、羽目を外した何人かの生徒がさらに長い休みを取るよう勧告され、生徒総会では学校はじまって以来の大荒れ、当時私は生徒会長の毛利君と事態の收拾に右往左往したこともあった。

しかし、考えてみると私の青春とは、あの北高の古い校舎とともにあった気がする。

そして、昨年8月12日には還暦の祝賀会を開催し、日本中から、なかにはアメリカから一時帰国しての出席者など約80人と、ほんのひとつではあったが18歳の高校生のあの日、あの気持ち共有することができた。

最初に、今も安来市を中心に活躍しているシンガーソングライター「宇田川妙」さん(われら27期の同級生である)の伴奏

で校歌を歌い同窓会が始まった。

当日は、ヘアースタイルもずいぶん変りはてた男子や、あこがれのマドンナに孫が4人もいることに驚きながらも、暑かった校内陸上大会や学園祭の思い出、青春ドラマの主人公になつたような錯覚さえ覚えた恋バナ、苦しくも楽しかった部活動などの昔話に時を忘れて語り合った。

その場を去りがたくて出席者の半数以上が2次会にも参加し、遅くまで飲みながら歌いながら愉快に楽しい同じ時を過ごした。今回の同窓会は、たくさんの協力をいただいて開催したのだが、中でも女子達の強力なサポートはありがたかった。

双松会発行の創立140周年記念同窓会名簿によると、北高27期卒業生約370人、内亡くなつていた友が20人(すくなくないか)、住所が記載されていない人が100人あまり。女子達は、今も交流があるのだから「あの子に案内してほしい」という連絡を何件もいただいた。

そして、打合せでも彼女たちのネットワークで手伝ってくれる人の輪がみるみる広がっていき、参加者も女子が多いぐらいだった。

当日の受付は、ヒロコ、オケイ、本家、ナガタなどの文系女子が中心となり、2次会の手配や運営も彼女たちにおんぶにだつこ状態。大変助かりました。

男子も負けずに協力してくれたのは言うまでもない。記念撮影では、機材一式を準備し、当日のセッティングから記念写真の焼き増しまで一人でやってくれた阿部君。理数科のみんなに声がけてくれたほんとの学年幹事の安部君。校歌のMDを準備してくれた原君。2次会でカウンターに入つて飲み物を作ってくれた梅君、増田君。

個性は書き尽くせないがみんなの協力で何とか思い出作りができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

みんな本当にありがとう。今回参加できなかった欠席者からは、残念な気持ちを返信ハガキの近況欄一杯に書いてあった。その中には、やはり年齢を感じさせるものが多く、親の介護のためとか、孫の世話のため、中には身内の不幸があり初盆を控えているためなどの理由とともに、次回はぜひ参加したいというものが大半であった。

学生から社会人となり、今年



島根県立松江北高等学校第27期同窓会

は多くの同級生がリタイアして第2の人生を歩んでいるのだが、まだまだ人生の半ば。これからの余生というには長すぎる時をいかに過ごしていくのやら。同窓会後に嬉しいことは、ミ二同窓会が増えたことだ。反省会と称して飲み会を企画すると誘った人のほとんどが参加してくれる。毎年は無理だがオリンピックやサッカーワールドカップのように4年に一度ぐらい同窓会があつてもいいかな。今回は、誰か幹事をしてくれー!!



ごあいさつ

会長 金津 任紀

高16期 (昭和40年卒)

盛夏を迎え、双松会の皆さまにはお喜び申し上げます。平素は、当会の運営や事業推進に格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。7月の幹事総会で再び会長に選任され、2期目として引き続き3年間双松会の運営にあたることになりました。その重責にあたるため身の引き締まる思いでございます。母校と双松会の発展のため、微力ではございますが一生懸命務めさせていただきますので、どうか叱咤激励賜りますようお願い申し上げます。

活動を知っていただくことで、より多くの「再会」が生まれることを願ってやみません。一方、学校や在校生のいろいろな活動を見守り、できる範囲で支援していくのも双松会の大きな目的の一つであるといえます。何彼と出費多端の折とは存じますが、「世界の人たれ北高生基金」、「北高の緑を守る基金」、「教育後援会基金」などへのご支援や会報発刊に關わる諸経費の援助についても引き続きご支援をお願い申し上げます。とりわけ、伝統の二本松はこれまで大雪や害虫被害により植え替えを繰り返してまいりますが、3代目もまたや松くい虫にやられ伐採のやむなきに至りました。北高の宝である二本松を守っていくため、何卒募金活動にご協力賜りますようお願い申し上げます。

けを模索しつつ、母校の校長をはじめ教職員・PTAとも連携を取りながら同窓生にとつて親しみの持てる、また在校生への強力な応援となる双松会を目指して本会活性化に向け



ご挨拶

校長 小山 理久

高28期 (昭和52年卒)

双松会の皆様には日頃より母校にたいし、多大なるご支援とご協力をいただき心より厚く感謝申し上げます。特に、創立百四十周年記念事業にあたり多くのご支援を頂戴し、また「世界の人たれ北高生基金」には多くの方々からご高資をお寄せいただき大変ありがたうございました。

本校は、皆様もご存じのとおり明治9(1876)年3月今の島根県警察本部周辺の殿町に創立され、翌明治10年松江中学校になりました。そして明治30(1897)年望楼型天守を有する国宝松江城天守の最上階を校舎から望む、ここ赤山に移転しました。赤山は、城のある亀田山とつながっていました。1607年から1611年までに松江城を築城し、内堀と侍屋敷を造成するため赤山が今の地形になったのでした。

町分校に通勤していたのでした。ここ赤山は地主の塩野門之助さんから今の第1体育館下のピロティにある井戸と二本松を末永く残すことを約束して譲り受けたことがご存じのとおりです。この二本松が双松

た諸施策を検討してまいります。引き続き、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

として本校の象徴です。明治40年(1907年)校訓の「質実剛健」が定められました。校訓について当時の第18代校長西村先生が、生徒の「心身の鍛練と元気の養成に重点を置き「質実剛健」を校訓として定められました。

この「質実剛健」と本校の校風としてある「文武両道」について少しひもといてみました。「質実剛健」は飾り気がなく真面目で心がしっかりしていることですが、「質実」と「剛健」の二つの語から構成されています。「質実」は、江戸時代末の明治維新の精神的指導者・理論家として知られる吉田松陰が「この元服を祝った『士規七則』が最初に使われた例のようです。『武士の行動は、質実で人を欺かないことが必要である。』と書かれています。名に値する中身を持ち合わせて、飾り気がなく真面目で心がしっかりしてあることです。次に「剛健」は、「易経乾(偉大なる天)」にして「精なり」とあり、「乾は偉大なかな。その本体は剛、その作用は健。その行動は中庸を得、その立場はかたよることがない。」と。志がおおしく、ものに屈せず、身体が強くすこやかなことという意味です。

西村校長先生の言葉とこの二つの意味を合わせて考えれば本校の校訓として生徒たちに何が求められているかは大体わかると思います。次に「文武両道」ですが、これは「史記孔子世家」に「臣(孔子)聞

くならく、文事有る者、必ず武備有り。武事有る者、必ず文備有り」とあります。また「平家物語」にも「あつばれ、文武二道の達者かな」という言葉があることから文武ともに兼備することが重要であることが古来から言われていることから本校の生徒に学問・芸術と部活動を兼ね備えるよう頑張ろうと言っていると考えます。また、さらに、島根県高等学校総合体育大会の壮行式や各部活動の選手を鼓舞する「疾風迅雷」という四字熟語がありますが、この言葉も中国の「礼記玉藻」に「若し疾風迅雷甚雨有らば、則ち必ず変ず」とあり、速く強い風や激しい雷など事態の急変をとる不測の事態に備え敏速な行動をとるよう頑張ろうというものです。本校は、創立百四十二年となり、本校の一世祖を越える伝統と文化を継ぐ卒業生を輩出し各界で活躍しているつしやいます。これも卒業生、在校生が校訓をはじめとした本校の伝統と精神を受け継いできた成果であり、今後も続くよう教職員一同、心を一にして頑張りたいと思います。さて、本年は1学年、普通科6クラス、理数科1クラスの280名の新入生が入学しました。入学式では、砂浜のカラスに壺に砂と拳ほどの石と小石を壺に入れていっばいにする話をいたしました。まず、拳ほどの石を壺にいっばい入れた後に、さら小石を入れ、そして最後に砂を入れれば本当に壺はいっばいになり三つのモノでいっばいになります。高校での学びには、多数の科目を勉強するだけではありません。課題研究や部活動そしてボランティアや生徒会活動、学校行事を通じて得られる学びもあります。やらなければならぬ学びは、たくさんあり、ここで、重要なのは、将来の目標である壺に入れの優先順位を決めて、日々の行動と活動を行うよう励ましたところでは、生徒諸君が先輩たちに統率して各分野で活躍して欲しいという金銭職員で応援しようと思っております。最後になりましたが、双松会の会員の皆様にご健勝でご活躍されますことをお祈りしご挨拶いたします。

事務局だより

一、「世界の人たれ北高生！基金」について

○創立140周年記念事業の一つ、寄付による新たな基金「世界の人たれ北高生！基金」を立ち上げさせていただき...

二、各地区の双松会の動向について

○東京双松会の総会

○近畿双松会の総会(60周年記念)

○広島双松会の総会

○米子双松会の総会

三、寄付金のお礼(昨年の8月以降)

○世界の人たれ北高生！基金へ

○140周年基金へ

四、起震館耐震工事の完了について

○昨年度7月より10月まで起震館の耐震工事が行われました...

五、名簿「双松」について
創立140周年の記念事業として、平成28年に発刊いたしました同窓会名簿「双松」ですが、現在、若干の在庫がございます...

平成30年度双松会幹事総会報告

【報告】

7月8日(日)15時よりサンラポーむらぐもにおいて、「幹事総会」が開催された。約60名が出席し、1時間半にわたり活発な議論がなされた...

- 一、平成29年度会務報告(承認)
二、同決算報告・監査報告(承認)
三、平成30年度会務計画(承認)
四、会計の統合について(承認)
五、平成30年度予算案(承認)
六、会報に関する諸経費援助のお願について(承認)
七、一般会計への寄付のお願について(承認)
八、役員改選について(承認)
九、平成30年度双松会幹事について(承認)
十、その他

- 会長 金修(松中61期)
副会長 古津任紀(高16期)
顧問 松本幹彦(高1期)
幹事 菅野昌幸(高21期)
副幹事 河原一朗(高23期)
監事 栗原直樹(高31期)
常任幹事 山口和子(高16期)

150周年基金へ
18期同窓会より30万円
石飛裕様より金津任紀会長へ



- 吉金隆(高19期)
松田龍志(高21期)
小原優子(高22期)
玄行登(高23期)
長崎悦子(高29期)
林原幹治(高29期)
貴谷敏行(高31期)
馬庭伸行(高34期)
金井真司(高36期)
田邊雅之(高38期)
岩本立樹(高42期)
安松崇徳(高43期)
渡部雅教(高46期)
渡部勝(高32期)

Table: 平成29年度 双松会会計決算書. Includes income and expense statements with columns for items, previous year, current year, and differences.

Table: 平成30年度 双松会会計予算書(案). Includes budgeted income and expense statements with columns for items, previous year, current year, and differences.

特集

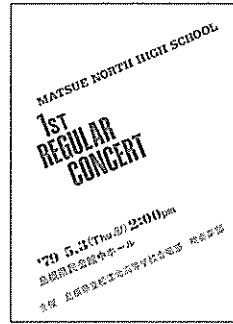
第40回定期演奏会を開催

6月10日(日)に、島根県民会館大ホールにおいて、音楽系4部(合唱部・弦楽部・吹奏楽部・箏曲部)による定期演奏会が開催されました。800名を超えるお客様にお越しいただき、大変盛況なコンサートになりました。



第40回定期演奏会「合同演奏」の様子

定期演奏会40年の「はじめの一步」



第1回定期演奏会プログラム表紙

1979年(昭和54年)5月3日(木祝)14時より、松江北高校第1回定期演奏会が島根県民会館中ホールで開催されました。当時は、合唱部と吹奏楽部の出演でした。第1回から14回まで部員の皆さんと共に定期演奏会を作り上げられた勝部俊行先生(現島根県合唱連盟理事長)に、当時を振り返っていただきました。

「前任の米山道雄先生が、そのレールを敷いて下さった第一回定演でしたが、吹奏楽部は、当時楽器が足りなくて校区内の小中学校に楽器を借りに行ったことをよく覚えています。時にはリヤカーで楽器を借りに行き、学校まで運んだこともありましたが、合唱部は、今までに演奏されたことがない前衛的な曲がすでに選曲されていてとても大変だった記憶があります。しかし本番まで、私はただ部員たちのなすことを見守っていただけで、実際には彼らが主体的に準備をし作り上げた演奏会でした。まさに質実剛健を表現してくれたのではないかと思います。自主的に生徒が創り上げていくという姿勢が、ひとつの北高定期演奏会の伝統となっていたのではないのでしょうか。」北高定演が始まった当時に想いを馳せることのできるエピソードでした。この第一歩から毎年欠かさずに開催され、今年ついに第40回目を迎えました。

第40回定期演奏会

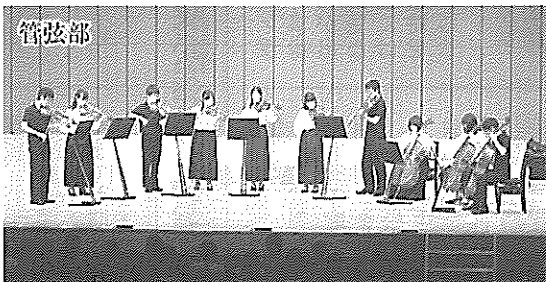
今回の定期演奏会は、音楽系4部が、クラシックからミュージカルナンバー、ポップスまで幅広いジャンルの音楽を演奏しました。それぞれの趣向を凝らしたステージを展開し、お客様からは「箏の本格的な演奏を聞くのは初めてで、本当に感動しました。」「弦楽部さんの繊細な音色が心地よかったです。」「合唱部さんの軸がしっかりとした伸びやかな歌声が勉強になりました。」「吹奏楽部の演奏がとても迫力があって引き込まれました。」「合同演奏では涙が出そうになりました。」等の感想をいただきました。



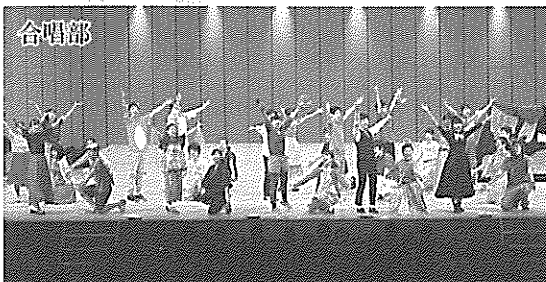
第40回定期演奏会プログラム表紙



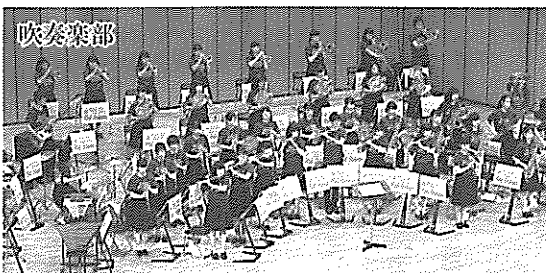
箏曲部



管弦部



合唱部



吹奏楽部

定期演奏会のあゆみ

Table listing the history of the regular concert from 1954 to 2030, including dates, venues, and special events.

これからの定期演奏会の「あゆみ」プログラムに記載してありました「定期演奏会のあゆみ」を見ると、40年間の歴史を感じます。この「あゆみ」が、ずっと続きますように、これからも応援していきたいと思っています。

各期だより

高12期生「喜寿記念同窓会」のご案内

昭和36年西川津校舎を巣立った同級生の皆様、如何お過ごしですか。

さて、私達、松高12期生は、めでたく喜寿を迎えます。

人生百年時代と言われる今日、第二の人生を有意義に過ごすためにも、セピア色も褪せてきた記憶を思い起こして、懐かしい面々が一堂に会し、旧交を温め、楽しい集いになればと思います。是非皆様と一緒に、喜寿の祝杯を傾けたく思いますので、お互い連絡を取り合っておき、多数のご参加をお待ちしております。

日時 平成30年10月2日(火) 16時受付開始

場所 松江エクセルホテル東急 (J.R松江駅北口)

松江北高、ここにあり!

高39期 中西 一滋

去る平成29年8月12日、サンラボ一むらくもにて、普通科第39期、理数科第18期(昭和63年



松江北高等学校普通科第39期理数科第18期卒業30周年同窓会

卒)同窓会を開催しました。これまでは卒業20年、25年のお正月に催してきましたが、30年という節目にあたり、より多くの同窓生に参加してもらいたいという思いから、お盆前の連休中日に開催すると案内しました。

当日は、84名の参加があり、また恩師の安田先生、北尾先生をお招きし、賑やかで懐かしい時間を過ごしました。卒業以来初めて顔を合わせる人、30年前と雰囲気?が変わっていて、「誰だっけ?」と本人に聞けず、周りの人に質問する人、お酒も入っていないのに「いやー久しぶり」とハイテンションな人、昔は無口だったのにおしゃべりになった人など、最初は比較的静かにスタートしました。お酒が入り、雰囲気は和むと、あちこちから悲鳴に近い喜びの

声や「全然かわらんや」と歓声が上がりが、会場内に多くの輪ができました。

念願叶ってようやく同窓会に参加できた安達君から、東京地区の同窓会開催提案が出たり、東京神保町で飲食店を経営している赤井君から店の宣伝があったり、世話人が持ち寄った高校時代の写真を上映したり、先生方から当時のエピソードを話していたりといふと、とても楽しい一時はあっという間に過ぎ、最後に校歌を歌い、中締めとなりました。

二次会は伊勢宮mayibeに場所を移しました。ほとんどの人が参加し、二次会からの参加者もあり、さらに盛り上がりました。

今回で三回目の同窓会でしたが、まだ一度も参加できていない人が多くいます。35年40年と会を続け、一人でも多くの人と再会できればと願っています。最後になりましたが、会の運営にあたり、快く協力してくれた世話人の方々に感謝致します。

双松会地区だより

東京双松会

東京双松会 事務局長 中村 康一 (高16期)

同窓会からシニアの集いと言うイメージが中々拭いきれませんが、同期卒業生の集いは、それなりに盛り上がりつつあるという

話はよく耳にします。総会参加者の卒業年度からみれば西川津校舎、赤山校舎を巣立ってから30年以上の方が多いいのも事実です。

現役で活躍されている諸氏が、多忙なのは当然のことですが、世代を超えた交流の場でもある総会に気軽に足を運んで頂くべく、日頃方策に頭を悩ませています。

そんな思いから、今年の総会は若返りを目指した方向を打ち出すことに致しました。

講演は田部長右衛門氏(北高平成10年卒)。数多くの会社や団体の代表として、出雲地方のみならず東京でも活躍されています。田部家は江戸時代、松江藩の製鉄の中心であり、第25代当主の田部氏は本年5月、日本古来の「たたら製鉄」を約100年ぶりに復活させました。その復活にかける思いや、島根の将来性などを語って頂きます。

又、初の試みとしてエンターテイメントを企画しました。シンガーソングライター山根万理奈さん(北高平成20年卒)に、懇親会の中で自由を披露して頂きます。

先日、友人から、文藝春秋7月号の「同級生交歓」欄に北高27期が出ていたとのメールももらいました。早速、頁を開いたところ東京双松会の会員の方も登場されていたのでとても嬉しく誇りに思いました。

本年度の総会は下記の通りです。楽しく有意義な交流の場になればと思っております。

平成30年度 第63回総会

活動報告、講演、懇親会

・期日: 10月13日(土)

・時間: 正午〜午後4時

・会場: アルカディア市ヶ谷 (私学会館)

・JR/地下鉄市ヶ谷駅 徒歩2分

・講演: 田部長右衛門氏

・山陰中央テレビジョン放送(代表取締役社長)

・演題「田部家750年 これ

・たたら製鉄550年 これからの島根(仮)」

・エンターテイメント: 山根万理奈 田部家

・お問い合わせ先: 東京双松会事務局 〒102-0084 千代田区二番町11-3 「中央印刷事務器(株)」 TEL 03326514858

近畿双松会

近畿双松会 事務局長 渡辺 悟 (高20期)

29年度総会は100名が出席。元文部科学省科学技術・学術政策局長の泉紳一郎氏(高24・理3) 大和大学理工学部設置準備室長に「科学技術の担い手の育成」日本の将来のキーワード」と題して講演していただきました。

また、28年度百人一首かるた読み手部門高校日本一に輝いた寺井萌乃さん(高68) 大阪大

学IIが学生ゲストとして参加。松江から駆けつけた堀江玲美先生(高62) II元百人一首部部長IIと登壇し、会場からのリクエストに答えて天智天皇、山部赤人、能因法師など5首を代わるがわるマイクなしで披露。夢の競演、に万雷の拍手が送られました。

28年度総会で兵庫県立大学学長として講演をしていただいた清原正義氏(高16)が今回、島根県立大学学長として参加され、「全国一の地方貢献型大学にした」との力強い挨拶をいただきました。

本年度は当会が戦後の活動を再開して60周年の節目に当たります。近畿在住の皆さん、ぜひ諸事業にご参加ください。

平成30年度、60周年、記念

「総会・講演会・謝恩懇親会」(9月に詳細を(案内))

・期日:12月2日(日)

午前11時半~午後3時半

・会場:中央電気倶楽部

(大阪市北区)

・記念講演講師:高橋一清氏

松江観光文化プロデューサー、「湖都松江」編集

統括、元文芸春秋各誌

編集長

・記念大福引大会

松江を中心とする郷土産品の福引(空くじなし)を計画中。

その他の行事

ゴルフ、文楽鑑賞、歴史ウォーク、里山ハイキング、宝塚歌劇鑑賞、落語鑑賞、年次会報発行

お問い合わせ先

・事務局長 渡辺悟苑

携帯:090-1449-6085

メール:swatanabe@kousoku-

office.jp

・近畿双松会ホームページから

参加申し込みもできます。

↓http://www.kinki-soushoukai.org/

米子双松会

米子双松会 事務局長

中西 秀夫 (高15期)

本年総会は3月11日、双松会から金平憲幹事務局長、松江北高校から小山理久校長をお迎えし開催しました。小山校長からは生徒の制作したDVDにより学校の近況報告をしていただきました。また米子市在住の三味線奏者上田福美さんの民謡や津軽三味線の演奏を楽しみました。二次会のカラオケ大会も盛り上がりました。

恒例の納涼会は7月8日に開催し、安来市在住の永見助野さん(北高平成16年卒・55期)に「後悔しない航海のスズメ」と題して、アメリカ・プリンセスクルーズ社の豪華客船クルーズとして世界各地を航海した体験を話していただきました。続く懇親会では大山地ビール大山グループで猛暑を元気に乗り切るパワーをチャージに暑気払いをしました。

ゴルフ部会は毎月20名前後の参加で大山周辺3ゴルフ場でコンペを行っています。旅行部会は10月頃に「大山開

山1300年」のイベントに合わせ計画中です。

米子市周辺(周辺でない方も歓迎)に在住・勤務の方、入会をお待ちしています。

連絡先

米子双松会事務局

〒689-3402

米子市淀江町淀江77-1

TEL&FAX

08591562315

広島双松会

広島双松会 幹事長

石原 通弘 (高13期)

平成29年11月に12回総会を双松会会長金津任紀様及び北高教頭渡部勝様、北高教諭井口環様にご臨席賜り開催し、活動計画等を決定しました。

また、設立当時より数々の支援を頂いている島根県広島事務所から所長の長田茂男様に出席賜り、総会に華を添えていただきました。

設立以来同級生や職域を通じて口コミで情報を伝達することとしています。会報をご覧いただいた方、事務局へご連絡いただければ喜びます。

一、今年の活動計画

今年の活動は恒例の総会・懇親会に、納涼親睦会1回、ゴルフコンペ3回程度開催して会員の親睦を深めます。

二、第13回総会・懇親会

日時:平成30年11月10日(日)

16時~19時

場所:広島ダイヤモンドホテル

(広島市西区観音新町 2-4-6)

三、その他の行事予定

①納涼親睦会

日時:平成30年7月20日(金)

18時30分

場所:さこう広島店本館

「マダムシエンロン」

(広島市中区)

②親睦ゴルフコンペ

日時:平成30年9月29日(土)

場所:瀬野川カンツリー倶楽部

(広島市安芸区瀬野川町)

四、連絡先

幹事長 石原 通弘

〒739-1742

広島市安芸区危崎二丁目29番26号

TEL&FAX

082184211416

携帯電話

090-950712312

E-Mail

ishihar2926@gmail.ne.jp

安来双松会

安来(東部)双松会 幹事長

足立三樹夫 (高16期)

昨年12月2日に市の「夢ランドしらすぎ」で安来地区の双松会を開催いたしました。

近年は、役員の高齢化や市内在住会員の連絡困難などの事情から総会がもてませんでした。これには事務局として責任を痛感しております。

今回は卒業生有志が世話人として「卒業生追懐談笑の集い」の名称で各人が思いおこす人々に呼びかけました。

当日は約40名の方が参加して下さいました。10年ぶりの集会としては一応及第点には達したと思います。

はじめに大槻嘉光世話人代表の熱い想いを込めたご挨拶があり、渡部教頭から母校の近況、活動報告がありました。

乾杯のあと久しぶりに出会う方、又はじめてお会いする先輩方と共に話がはずみました。

そこでは東部双松会の現実の課題などたくさん意見をいただきました。名称についても島根県東部(松江等も含む)の双松会と誤解されている面もあるので変更したという提案もありました。その後島田一嗣会長のもとで検討し、市町村合併により新安来市も誕生したことで

もあり「安来双松会」と会の名称を変更した上、会の持続性を願って、会長はじめ役員若返りを図ることにより、発展的に継承しようとの思いで一致いたしました。

今後はより積極的な活動をめざしたいと思います。

通信制双松会

通信制双松会 会長

野津 裕

松江北高通信制が平成25年に閉講になり同窓会は名称を通信制双松会と改めて発足致しました。閉講するまでの総会の運営は各年の卒業生の中より1、2名の幹事を選出してその幹事会を総会に替える方式で行っていましたが、通信制双松会になってか

らは全員を対象とした総会に変更をして、昨年11月双松会の金津会長の御臨席をいただき第1回目の総会及び懇親会を出雲市で開催しました。何十年ぶりの再会でそれぞれ懐かしい話で盛り上がり、47人参加者の母校愛には強いものを感じました。今後は県の東部、中部、西部を輪番で開催することを確認しました。総会では会計報告、今後の総会の内容等を審議致しました。

平成28年度選任制双松会決算報告

収入総額	795,767円
支出総額	203,814円
残高	592,953円

収入の部		金額	備考
繰越金	786,569		
雑収入	198		預金利息
合計	795,767		
支出の部		金額	備考
支援金	30,000		双松会へ
通信費	984		役員会案内
交通費	22,830		役員会
寄付金	150,000		双松会100,000 宍道高校50,000
合計	203,814		

第2回通信制双松会総会及び懇親会のご案内

期日 平成30年11月10日(土) 13時30分より
 場所 浜田市黒川町4-1-77 (浜田ワシントンホテルプラザ)
 駅より徒歩3分
 ☎08551236111
 会費 6500円
 参加申込みは、ハガキに住所氏名、電話番号、卒業年を記入して左記に申し込んで下さい。
 申込み締切り10月20日
 〒697-0211
 浜田市金城町波佐イ484

北高生の活躍

島根県高等学校総合体育大会

男女総合準優勝 (男子総合3位・女子総合3位)

5月下旬から6月上旬にかけて第56回島根県高等学校総合体育大会が行われました。各部熱戦を繰り広げた結果、男女総合(Aグループ)第2位となりました。各部それぞれ目標に向かい、全力を尽くしました。8月に静岡県・三重県で開催される全国高校総体(インターハイ)に出場するチーム・選手を紹介します。

陸上競技部

男子100m 門脇 陸
 男子200m 門脇 陸

男子400m 伊藤 千紀
 男子1600mリレー 森永 夏野 門脇 陸 伊藤 千紀 中井 空

女子100m 高田 桃花
 女子100mハードル 高田 桃花

登山部 3年 栗原 美桜 濱口 美如 桑原 花帆 森岡 咲妃

弓道部 2年 富田 虎鉄

加納 昭則 行き
 お問合せは 加納 昭則
 (090-4573-5557)

文化部の活躍

- ボート 男子ダブルスカル 3年 今岡凜羽斗 牧野 光輔
- 女子ダブルスカル 3年 義田 千晴 宮廻 那智
- テニス 男子シングルス 1年 金阪 大夢
- 美術部 美術・工芸部門 2作品(5年連続) 3年 上田ちひろ 赤坂 梨紗
- 囲碁将棋部 将棋部門男子団体 3年 山根 陽 廣江 翔 坂本 遊野 山本 大志
- 放送部 朗読部門 3年 田中菜穂子
- 自然科学部 ポスター発表部門 2年 守岡 里穂
- その他の全国大会 第65回NHK杯全国高等学校

「世界の人たれ 北高生！基金」の活動報告

創立140周年記念事業の一つとして、立ち上げられた「世界の人たれ北高生！基金」につきまして、次のような形で本校の教育活動の実施費用として、また本校生徒の研修費用の補助として拠出させていただきましたので、ご報告いたします。

世界の人たれ講演会

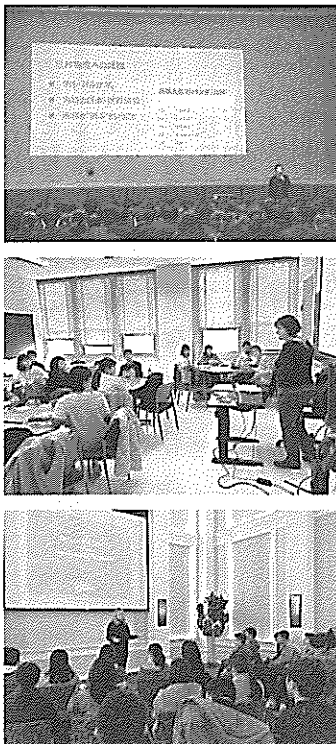
平成30年2月9日(金) 本校卒業生である三井物産株式会社執行役員、佐藤真吾氏に講師として来校していただきました。海外で主に鉄道プロジェクトに従事した経験等を交えながら、今後の国際社会において、どうあるべきかについて貴重なお話をいただきました。「今日の講演で、視野を広くして見渡す

こと、挑戦することの大切さを学ぶことができました。」生徒も講演を通して、広く世界に目を向けたようでした。

アメリカ研修旅行(グローバルリーダー養成プログラム)

平成30年3月26日(月) 4月4日(水)(10日間)

本校の国際理解教育プログラムの一環として、1年生3名がこのプログラムに参加しました。ホームステイや語学研修、ハーバード大学等世界のトップにランキングされる大学での学生との交流を通し、大いに見聞を広め、得難い経験をしました。今後は冬季休業中に、エンバワメントプログラムの実施を予定しており、その参加費用の補助としてこの基金を使わせていただくように思っています。このプログラムは、海外からの大學生を本校に招き、彼らとの英語でのディスカッションやプロジェクト型学習を通し、これからの時代に何が必要かを国際的な視野のもとに考えるものです。多くの方のご支援のおかげで、本校生徒たちが大変貴重な学びの機会を与えることができました。ご報告に併せて厚くお礼申し上げます。



本年度の進路状況

進路指導部長 坂上清一郎

2018年度大学入試センター試験における受験者数は、前年から6320人増の55万4千212人であった。一方で国立大学の志願者総数は前年から約5千人減の46万5千708人で、志願倍率は4.63倍であった。平均点は、文系552点、理系560点(いずれも900点満点)と、ほぼ前年度と変わらなかった。各科目ともに概ね標準的な平均点であったが、大きな特徴とすれば、英語(リスニング)が開始以来最も低い平均22.67点、昨年度平均点の低かった国語がさらに減少するなど、予想外の結果に終わってしまった。受験生も多量に減少した。また、平均点は変化がなかったものの、英語(筆記)と数学ⅡBにおいては、高得点が出てくれない問題であった。そのため、文系、理系ともに、得点率8割以上の高得点層が約1割減少した。学部系統別の志願者数を見ると、引き続き「文高理低」傾向が見られる。社会・国際・経済・経営・商などが増加し、農・医療系が減少した。「社会・国際」では、首都大東京の学科改編や、広島大総合科学部国際共創学科や九州大共創学部の新設など、時代のトレンドと言える。また、近年の好調な就職状況を背景

に、経済系の人気は根強い。

本校生徒の入試結果を振り返ると、国立大学合格者数は、現浪合わせて延べ211人で、ほぼ例年並み。いわゆる難関10大学の合格者数は29で昨年と同数。国立大医学科は16人が合格。これは、平成13年度以来、過去18年間で最多(それ以前の合格者数は不明)である。前述の全国得点状況では、得点率8割以上が減少しているが、本校生徒は高得点層が増加しており、難関大や医学科の好調要因となった。

高大接続改革により、今年度高校に入学した1年生が受験する大学入試から、いよいよ「大学入学共通テスト」に変更となる。また、教科以外の活動内容を大学入試に活用するため、それらを蓄積し、データ化するためのツールも導入予定である。大学改革では、学部・学科の新増設や改組がここ数年の間に相次ぎ、前述の広島大、九州大の学部学科新設は注目される。また、島根県立大学も、松江キャンパスの短期大学部が総合文化学科と保育学科の定員を減じ、4年制の人間文化学部を新設した。また、短期大学部栄養学科を廃止し、出雲キャンパスに4年制看護栄養学部を新設。山陰地区唯一の管理栄養士養成学科である健康栄養学科が誕生

した。入試改革では、面接試験での自分の思いが重視されたり、プレゼンテーションを課す大学も徐々に増えている。

かつて日本では、どの大学に入るかが重視され、入るための「受験勉強」が重視されていた。いわゆる「学歴社会」と言われる世の中を生きて抜くための「生き方」であった。

当時の日本の大学は、入るのが難しいが、入ってしまったら必要な資格を得られ、サークルとアルバイトの毎日を過ごして4年間でほぼ全員が卒業していた。しかし、これからの大学はそうではない。大学で何を学ぶか、どのように学ぶか、社会を切り拓く、社会を創造する人材を育成するため、大学教育は変わりつつある。その姿は欧米の大学のあり方に近づいているのだ。

このような改革の源流は、「社会がどのような人材を求めているか」につながっている。すなわち、高校生にとっては、「どのような人材になるか」という問題を「自分事」として考えていく必要がある。自分がどんな力をつけ、どんな形で社会に貢献し、どんな人々を幸せにするために生きるのか、そんな「生き方」を考え、次のステージを選択することが重要である。それがいわゆる将来の「夢」。その夢に対する思いが強ければ強いほど、目の前の高い壁に向かう意欲が強くなる。次のステージに向けて壁を乗り越えることこそが「受験」である。北高での進路指導は、何度も何度も

面談を繰り返し、何度も進路希望調査を行う中で、自分の「生き方」を考え、そのために必要な力をつけるための努力を継続する。その過程では大きな苦しみを伴うことも少なくない。現役生にとっては、何もかもが初めての経験で、手探りで模索が続く。しかし、その経験を乗り越えたと、知らぬ間に「生き方」を考え、前に進んでいる。そして、北高での日々の学習や課題研究、部活動や生徒会活動など、すべての教育活動が、今求められている力の育成につながっている。

進路状況

平成30年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数 (平成30年4月集計)

卒業生	平成28年3月			平成29年3月			平成30年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	128	28	156	137	27	164	134	29	163
公立大学	30	2	32	42	1	43	41	6	47
私立大学	230	65	295	189	35	224	234	27	261
短期大学	28		28	28	2	30	16	0	16
専門学校	35		35	24		24	27		27
就職者			0			0			0
合計	451	95	546	420	65	485	452	62	514
クラス数	8クラス			8クラス			8クラス		

編集後記

この度の平成30年7月西日本豪雨で被害を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げます。一日でも早い復興を祈っています。

普段何気なく生活してきて、この当たり前の生活の貴重さを感じずに生活しています。私達は、地域の人々・家族・友人・職場の同僚の方など、周りの皆様のおかげで生かされています。現在の生活はどうしても自分本位になりがちです。人のために生きる。人が気持ちよく生きていくための助けをすることも、現代人にとって必要不可欠なことではないでしょうか。

さて、私は赤山校舎の一期生であり、在学中には百周年記念行事もありました。当時最新の施設、備の中で、恵まれた学校生活を送ることができました。当時は、バスケットボール部に所属していた。同期普通科32期・理数科10期のチームメイトは、葛尾君・高橋君・小川君・松本君・福島君・高井君・山根君でした。顧問の目次健司先生の御指導のもと、仲間と共に汗と涙を流した青春の日々を思い出します。七月にはこの仲間と会って飲み会を開く予定です。久しぶりに会って昔話に花を咲かせるのを今から楽しみにしています。現在は顧問として、自分の子供ぐらいの年齢の後輩と共にコートに立ち、北高男子バスケットボール部の復活(松江北高ここにあり)を目指して、日々練習に励んでいます。

最後になりましたが、お忙しい中原稿を執筆していただきました皆様、誠にありがとうございます。皆様の御多幸をお祈り申し上げます。(宮井賢治(32期))